

令和 6 年度秋田県総合政策審議会
第 3 回 観光・交流部会
(議事要旨)

1 日時 令和 6 年 8 月 29 日 (木) 午後 2 時～午後 4 時

2 場所 秋田地方総合庁舎 6 階 610 会議室

3 出席者 (敬称略)

【観光・交流部会委員】

吉澤 清良・・・・・・立命館アジア太平洋大学サステイナビリティ観光学部教授

黒川 花子・・・・・・株式会社千葉旅館 取締役

守屋 奈美・・・・・・有限会社石孫本店 総務企画・海外担当

豊田 哲也・・・・・・国際教養大学 中嶋記念図書館長・教授

※吉澤部会長はオンライン参加

【県】

観光文化スポーツ部 次長 佐々木 重夫

次長 伊勢 弘

次長 鈴木 雄輝 ほか関係課室長等

4 吉澤部会長あいさつ

本日は、台風 10 号の影響でオンライン参加となった。

進行を行う部会長がオンライン参加となり、発言しづらい部分もあるかもしれないが、皆さんに協力いただきながら有意義な部会にしていきたいのでよろしくお願いします。

5 議事

(1)「新秋田元気創造プラン」戦略 3 の推進に係る施策の提言について

□小松観光戦略課長

(資料に基づき、主に提言書案について説明)

(公募委員からの意見について紹介)

●吉澤部会長

説明にあったとおりだが、これまでの部会の発言内容を資料 2 に整理している。提言書と併せて確認いただきたい。また、参考資料 2 は当部会から他の部会への提案事項になるが、黒川委員から提案のあったラーケーションについては、教育行政に関わる部分であるため、教育・人づくり部会で議論していただくこととしている。

公募委員である石田委員からの意見について、大きな方向性としては、当部会におけ

る議論と重なると考えており、必要に応じて取り上げていければと考えている。

提言書の内容では、提言 3 の文化・芸術や提言 4 のスポーツ振興の部分について、本日ももう少し意見をいただきたい。また、県の重点施策として、カーボンニュートラルやデジタル化の推進、女性や若者の定着・回帰、賃金水準の向上の 4 点があるため、こういった観点からも意見をいただきたい。

まずは提言 1 の観光産業に関わる部分について、追加や改めて強調しておきたい部分はないか。

○豊田委員

石田委員からの意見において、能代港におけるクルーズ船誘致に関するものがある。県北地域の観光振興として、提言書の受入態勢の整備の部分に追加することもできると思うが、この点について意見をいただきたい。

□備前港湾空港課長

令和 6 年のクルーズ船の寄港は 27 隻予定されており、秋田港が 26 隻、船川港が 1 隻で、能代港への寄港は予定されていない。

近年は、大型クルーズ船や小型ラグジュアリー船の寄港が増加する傾向にある。能代港においては令和 6 年の予定はないが、去年は 140 名程度の定員であるヘリテージアドベンチャーという船の寄港実績がある。

県としては、能代港に限らず、県全体のポートセールスとして、クルーズ船社やランドオペレーターへの訪問・招へい等を行い、寄港の促進に取り組みたい。

●吉澤部会長

クルーズ船の誘致については、能代港に限ったものではなく県全体のセールス、若しくは豊田委員の意見のとおり、県北地域への誘客の観点から提言書に反映できるか検討したい。

黒川委員の施設で、これまでクルーズ船の乗客を受け入れた実績はあるか。

○黒川委員

これまでの実績はない。秋田、青森、岩手の中心に位置する内陸の温泉であり、クルーズ船の乗客については、行程を考えると現実的ではない。

●吉澤部会長

こういった現場の実態も含め、提言書への記載については、クルーズ船に関する大きな方向性を示すことで調整したい。

○豊田委員

クルーズ船の乗客は県内に泊まらないため、比較的に飲食に関するお金は落ちない。また、クルーズ船の乗客は中高年が多く、クルーズ船を利用する魅力は、同じ場所に泊ま

っているためパジャマや歯ブラシを持ち運ばなくても良いこと。寄港の時間が延長できたとして、そういった旅行者がわざわざ船外で宿泊するのかは疑問がある。

提言書の大館能代空港に関する記載について修正をお願いしたい。世界遺産に指定されているものは外国人にも評判が良い。二つの縄文遺跡のほか、白神山地についても世界的に価値の高い観光資源であるため、追記をお願いしたい。

●吉澤部会長

現時点の提言書案について、満遍なくまとめられているが、この全てを数年で進めることはできない。そういった意味では、この点を強調したい等の意見もいただきたい。

例えば、人材育成に関する記載もあるが、黒川委員から何か意見はないか。

○黒川委員

人材育成については提言書に記載のとおりでよいと考えている。職場環境の整備については、その当事者が、様々なツールを自身の事業所に合わせてどのように活用していけるかどうか。それぞれの事業所が、その事業所に合ったものを考えてく必要がある。

●吉澤部会長

宿泊施設における職場環境づくりについて、どういった支援があるとありがたいのか。

○黒川委員

他県において、A I の活用などの話題はあるが、実はその内容を理解できていない、苦手意識を持っているという方も多いと思っている。基礎的な内容やその技術の活用事例などを取り上げるセミナーがあってもよい。

鹿角では、数日前に商工会の主催で、仙台からデジタル関係の講師をお呼びして講演会が開催された。参加して感じたことは、参加者の知識レベルの差が大きい、ということ。セミナーを開催する場合は、ターゲットを明確に定め、そのレベルに合った内容となるよう配慮する必要がある。

□小松観光戦略課長

県の観光部門としては、システム導入等に対する補助事業は実施しているが、A I を活用した観光事業への補助やセミナーの開催について、現時点での実績は無い。観光業に限らず、様々な産業を対象としたA I に関するセミナーなどは、県のデジタル担当部門や商工会で対応しているものと認識している。

○豊田委員

技術の世界では、10 年ほど前に開発され、既に開発の余地が少なく、活用や普及を行う段階になったものを枯れた技術と呼んでいる。秋田の観光に足りないのは、A I のような最新技術ではなく、この枯れた技術の方だと考えている。例えば、Google マップ上に英語表記を行うことや、音声入力による検索、Google 翻訳を利用して市町村のウェブ

サイトを翻訳するなど、技術としては 20 年前の技術だが、こういったことに取り組んでいない市町村が多い。

デジタル人材の育成と言うと、最先端の技術を使いこなす人材の育成をイメージするが、それよりも、Google マップや Google 翻訳を広く県民が使いこなせることの方が経済効果は大きい。

例えば、小学校や中学校の授業の中で、住んでいる街を英語版の Google マップで見よう、というような授業ができると良いかもしれない。

○守屋委員

豊田委員の意見のとおり、デジタルへの対応も必要だが、観光業においては、対人コミュニケーションも重要である。デジタル化への対応と両輪で、観光業に興味がある人材を育成する必要がある。

●吉澤部会長

デジタル人材の育成については、専門家の育成だけでなく、全体の知識の底上げ、という視点も必要である。

○豊田委員

デジタル対応の関連として、例えば秋田市の川反周辺の飲食店では、店名や営業時間が英語で掲載されていない。外国人を呼び込むのであれば、是非取り組んでいただきたい基本的なことだが、この基本的なことを全ての飲食店に広めることが難しい。大分県はどういった状況か。

●吉澤部会長

別府や由布院の一部は多言語表記ができていますが、全ての飲食店で取り組んでいるわけではない。外国人観光客を求めている店舗もあり、様々なケースが混在している状況である。

提言書においては、情報発信やプロモーションに関する記述が多いが、店舗やオンライン上における英語表記に取り組むといった基本的な内容を記載しても良いかもしれない。

●吉澤部会長

次に提言 2、食品産業関係の話題に移りたい。

○守屋委員

提言（1）②の米粉に関する部分について、他地域や県内における具体的な米粉加工の事例を追記してはどうか。

提言（3）①のプラットフォームの構築は是非進めていただきたい。また②の市場開拓については、海外だけでなく国内での市場開拓にも触れてほしい。

□佐藤食のあきた推進課長

県産米粉活用に関する協議会があり、新商品開発に取り組んでいる事業者のほか、輸出用にグルテンフリーの米粉パスタを製造している事業者もいる。そういった事例から具体例を選定できるかもしれない。

○黒川委員

ブランディングの関連で、新商品の開発に当たっては、インパクトや面白み等の観点も含め、分かりやすいネーミングを考えることも重要である。

○豊田委員

食べ物のブランディングについても、インターネット上でアルファベットの名前が検索できることが必要である。Google マップに英語表記を掲載することは、10 秒程度で作業できる上、これがあるとないとでは大きな違いがある。例えば、バンコクやチェンマイという都市名がタイ語での表記しかなければ、それがどの都市を指すのか誰もわからない。外国人観光客が見る日本語も同様である。アルファベットで検索できなければ、そのものは存在しないのと同じことになってしまう。

●吉澤部会長

観光連盟や観光協会において、英語表記の促進に関する取組実績はあるのか。

□小松観光戦略課長

Google マップに関するセミナーを一昨年から行っている。昨年は、観光事業者に限定せず、飲食業関係も対象として実施したが、参加者は多くなかった。後日、事業者に話を聞くと、そういった内容を知りたかった、という声もある。ある程度のノウハウは蓄積できているため、引き続き事業者に対して丁寧にお知らせしていきたい。

○黒川委員

この会議前に豊田委員から Google マップ上での英語表記の方法を教えていただいた。こういった内容は個別の事業者では取り組みづらい場合もあるため、観光協会やDMOなど、地域全体の観光を担う組織が主導的に取り組んだ方が良い。

●吉澤部会長

これまでも声がけ等は行っているかと思うが、Google マップ上の英語表記については、観光協会やDMO、地域振興局等とも連携して取り組んでほしい。

●吉澤部会長

提言3、文化・芸術に関する話題に移りたい。

提言（1）①に、県内文化施設等と連携したイベントという記載があるが、具体的に

はどういったものを想定しているか。

□小原文化振興課長

例えば、ミルハスでフルオーケストラの公演を行い、駅周辺にあるアトリオンで小規模アンサンブルの公演を行う、若しくは隣接する秋田市文化創造館で子ども向けの無料イベントを実施する等の連携を行っている。文化施設ではないが、商工会議所と連携した周辺の賑わい創出にも取り組んでいる。

他地域の文化施設との連携については、今後、市町村を対象とした研修会などを行いながら方向性を考えていきたい。

○豊田委員

提言書を確認して、小ホールの利用率が低いことを初めて知った。利用率を上げる場合、通常は利用料金を下げるなどで対応することになる。ミルハスは小ホールも非常にクオリティが高く、利用料金が下がると予約が殺到するのではないかなと思うが、利用料金の設定について、県で規制など行っているのか。

□小原文化振興課長

利用料金の上限を条例で定めている。上限の範囲内で利用料金を変更することはできるが、これまで利用料金の変更は行っていない。まだ運営3年目であり、動向を見つつ指定管理者と相談したい。

○豊田委員

運営については、民間にある程度任せることで効果が高くなる場合がある。クオリティの高い施設を作ったこと自体が既に非常に大きな支援であるため、運営については自由度を高め、民間の力を最大限生かすことを考えてほしい。

●吉澤部会長

小中高校生など、県民が利用する場合の減免措置はあるのか。

□小原文化振興課長

県民利用の際の減免についても様々なパターンに対応できるようになっている。

●吉澤部会長

利用されていない日が多いのはもったいない。減免措置を効果的に使い、県民利用を促進してほしい。

○守屋委員

ミルハスはいまだ行ったことがない。県民が気軽に訪れやすいような周知にも力を入れていただきたい。

●吉澤部会長

ミルハスの周知についても指定管理者が行っているという認識で良いか。

□小原文化振興課長

基本的に指定管理者が対応している。周知が不足している点については、当課としても課題意識を持っており、委員からの意見も指定管理者に伝えていく。

●吉澤部会長

提言4、スポーツに関する話題に移りたい。

提言書の記載について、不足や強調したい部分はないか。

○黒川委員

先日もお伝えしたとおり、冬季は観光客が落ち込む時期であり、冬季の誘客につながる大会は大変ありがたく思っている。

大会の運営においては、運営スタッフの数が少なくなっていると聞いている。大会運営スタッフの充実についても今後考えていっていただきたい。

○守屋委員

提言書の記載について、冬季のスポーツ大会であればスキー大会のイメージがあるが、冬季のイベントとは、例えば雪まつりのようなものを想定しているか。

□樋口スポーツ振興課長

交流人口の拡大につながるスポーツ大会やスポーツイベントを支援する意味で記載している。

●吉澤部会長

冬季の交流人口の拡大については、誤解のないように記載を修正した方が良いかもしれない。

○豊田委員

秋田市雄和にある県立中央公園については、少し古くなっているが非常に良い施設だと思っている。屋内競技場ではあるが、この施設も冬季の利用率が低い。この理由としては、雪の中で車を利用するのが面倒、若しくは中高生は車を運転できないということがあると思う。

提言5に関わる内容かもしれないが、スポーツ振興においても公共交通網が整備されていることが重要である。すぐに対処できる問題ではないかもしれないが、中央公園に限らず、各施設の冬季利用の促進に対しても公共交通網の整備は重要な要素となる。

●吉澤部会長

大学の授業の一環で、来週から北海道の平取町に学生を連れて行く。北海道もバス運行が少なく、移動できない場合はその場所に行くこと自体を諦めることもある。県外も含め、学生需要の観点からも公共交通網の維持は重要である。

○豊田委員

スキー客の誘致について、国内では北海道のニセコと長野の白馬が力を入れている。ニセコはパウダースノーの質が高く、インバウンド需要が高いことは納得できる。白馬のインバウンド需要が高いのは、少しの工夫が大きな要因になっていると思っている。

10年ほど前、オーストラリア大使館の職員から、32センチほどの大きいサイズのレンタルブーツがあるから白馬に行く、という話を聞いた。他のスキー場にも大きいサイズのレンタルブーツはあるかもしれないが、白馬の場合は、そのことがネット上で確認できる。

こうしたちょっとした工夫の積み重ねが白馬のスキー場と田沢湖スキー場の集客の差につながっていると思っている。田沢湖スキー場は雪質もよく、連泊しても料金はそれほど高くないため、もっと観光客が増加してもよい施設である。Google マップの英語対応も含め、こういった基本的な対応について、県から働きかけていただきたい。

●吉澤部会長

豊田委員の意見のとおり、白馬については様々な事例を拝見しているが、当たり前のことにしっかり取り組んでいるという印象がある。キーマンになる方がいて、その方が積極的に取り組んでいる、という状況もあるが、現在はマウンテンリゾートとしてグリーン期の誘客も進めている。

秋田の冬は、スキー場をはじめとして雪が大きな魅力になり得るが、新緑の時期も素晴らしいものがある。しかし、新緑の時期の観光客は少ない。白馬におけるグリーン期の誘客についても参考にしてほしい。

○豊田委員

田沢湖は日本で一番深い湖であり、風景も良く、インスタ映えする。田沢湖スキー場は恐らく、日本で唯一、スキー場のどこからでも湖を背景に写真を撮ることができるインスタ映えするスポットである。しかし、田沢湖スキー場のウェブサイトにはそういった記載が一切ない。県民の多くは知っているかもしれないが、こういったことを日本語でも英語でもウェブサイトに掲載しておくことが集客につながる。

●吉澤部会長

冬季の宿泊が落ち込むという話があったが、良い時期なのに観光客が少ないという時期もあるのか、黒川委員に伺いたい。

○黒川委員

春先、まだ枝だけの状態の庭を見て、これから芽吹く印象を受けて感動したという意見があった。様々な価値観があるため、それぞれの事業所が積極的に情報発信に取り組む必要性を感じている。

●吉澤部会長

冬季に限らず、観光需要が落ち込む時期にスポーツを生かした誘客に取り組むことができるという。

○守屋委員

スポーツをきっかけとして秋田に来る方も一定数いるため、その際に自然や食を知ってもらうための仕掛けづくりは必要である。

○豊田委員

秋田平野は東北でも最も広い平野の一つ。秋田県は比較的に平野部が多い県である。東北では、宮城県と並んで平野部が多いが、人口は少なく、その意味では道が広い。住民は狭いと感じているかもしれないが、青森や山形と比較すると秋田県の道路は自転車が走りやすい。さらに、サイクリングルートの整備も進んでいる。原発関連施設もなく、洋上風力発電も進めているため、SDGsやエコとの親和性が高い。さらに関東と比べると夏季の気温も低いため、秋田県は夏季のサイクリングツーリズムを誘致できる可能性が高いと考えている。

□菅原道路課チームリーダー

自転車活用推進計画においては、まちづくりや健康・スポーツ、観光、安全の4項目で目標を設定し、関係各課と連携して施策に取り組んでいるところ。サイクリングルートの関連では、ここ数年の事例は少ないが、昨年、大館市が「ハチ公きりたんぽライド」という大規模な大会を開催している。県としても、引き続き市町村に対して、自転車活用推進計画策定の動機づけや、サイクリングルートの設定に向けた支援に取り組んでいきたい。

●吉澤部会長

自転車観光については、スポーツとして取り組むだけでなく、のんびり自転車を楽しむという観点も持ってほしい。国東半島でも、外国人向けに、自転車でのんびり寺社仏閣を周遊するようなサイクルツーリズムに取り組んでいるが、非常に人気がある。

●吉澤部会長

提言5、交通ネットワークに関する話題に移りたい。

提言書の記載について、不足や強調したい部分はないか。

石田委員からの意見でも交通ネットワークに関するものがあるが、課題認識としては当部会と共通している。地域公共交通を利用する場合の中間支援組織を作ってはどうか、

との意見があるが、これも地域の実情に応じて取り組むべき事項であるため、意見をそのまま提言書に反映するものでもないと考えている。

□信太交通政策課長

デマンド交通を利用する場合の利用者に対する支援については、その運用の中で対応している。例えば、必ずしもスマートフォンで予約する訳ではなく、カスタマーセンターを設置する場合もあれば、地縁団体が予約の支援を行うなど、各地域の実情に応じて工夫して取り組んでおり、こういった仕組みの中で解決していく課題であると認識している。

また、大館能代空港については、かつてはあきた北空港という愛称を使用したことがある。しかし、一つの空港に二つの名前があることで、地図へ表記する場合に混乱する、また秋田空港と混同して間違ったチケットを予約するなどの問題があり、地域の話し合いの中で、愛称ではなく、大館能代空港という名前で統一することとした経緯がある。

他県の事例ではあるが、愛称を付けることで地域は盛り上がるかもしれないが、認知度向上にはつながらないのではないかと、との意見もあり、空港の愛称と認知度の関連性についてはまだ精査が必要である。

さらに、大館能代空港は、県内利用だけでなく、青森や岩手など県境をまたいだ利用も視野にあり、名称の付け方に当たってはその点への配慮も必要である。名称を付与することは、その名に基づくイメージの認知で縛られてしまうこともあり、様々な議論があると思われる。

認知度向上に向けては、企業や旅行事業者に対して、周辺の観光素材と併せて空港のPR活動や説明会を継続的に実施していきたい。旅行における空港の利用については、行きたい場所への交通手段として検索される。まずは観光素材の魅力向上を図り、その場所へのアクセス情報の候補として、大館能代空港の情報がしっかりと検索できる態勢をつくっていきたい。

●吉澤部会長

愛称については事務局からの説明のとおりだと思う。これまでの当部会での議論で言えば、大湯環状列石や伊勢堂岱遺跡の認知度をまずは向上させることが重要であり、そのアクセス情報として大館能代空港が検索される状況が必要である。

○豊田委員

愛称については部会長や事務局と同意見である。

これまでの部会でも発言しているが、フェリーの利用について再度申し上げる。全国のフェリーを検索すると、Google マップ上で情報が検索できるようになっている。新日本海フェリーにも取り組んでいただきたいので、働きかけをお願いします。

□信太交通政策課長

先日状況を確認したところ、社内で検討中とのことだったため、引き続き対応を促し

ていく。

○豊田委員

費用がかかる訳でもなく、簡単に対応できる内容のため是非お願いしたい。

○守屋委員

前回の部会で運転手の確保について発言しており、提言書に反映いただいてありがたいと思っている。高校訪問や職場見学会、運転体験などの事例が掲載されているが、この記載では、新卒を対象とした方向性に読めてしまう。バス事業者のニーズもあるかと思うが、対象者の年代を問わず、運転手確保に向けた取組を支援してほしい。

●吉澤部会長

別府市のローカルCMでも30～50代を対象としているようなものが流れており、運転手の確保については、対象を新卒に限るものではない。

○豊田委員

秋田県では大型運転免許取得に対して支援を行っているか。

□信太交通政策課長

行っている。加えて、大型免許ではないがタクシー向けに2種免許の取得支援も行っている。

○豊田委員

引き続き支援していただき、これからも広く周知していただきたい。

○黒川委員

前回の部会でも発言しているが、大館能代空港の利用促進については、宿泊キャンペーンが終わった後の認知度向上に向けた取組も検討していただきたい。

○豊田委員

クマの問題についても伺いたい。

クマの出没はスポーツの面にも影響しており、朝の散歩がしづらい、サイクリングルートも使いづらいという状況になっている。また、世界文化遺産に登録された伊勢堂岱遺跡などのプロモーションに対しても影響があったと考えている。

このように、住民の安全だけでなく、観光や文化、スポーツの振興にも影響するものであり、今後こういった対策を行っていくのか。

□大高自然保護課チームリーダー

県内の熊の数は非常に多いほか、気温の上昇も観光に対しては影響していると思って

おり、こういった状況にあった観光振興の手法は今後考えていく必要がある。

自然保護の観点からは、クマが生息する環境の中で、白神山地や森吉山などの自然を安全に楽しんでもいただき、環境保護を進めていくという教育を行っている。まず大事なことは、クマに会わないこと。気をつけていれば、会う確率はそれほど高くない。鈴を携行するなど音を出しながら、自然体験を楽しんでほしい。残念ながら会ってしまった場合は、後ろを向いて走らないなど、身を守る行動を取っていただくしかないというのが現状。様々な知識を普及しながら、安全に楽しんでもいただく環境づくりを進めていきたい。

●吉澤部会長

被害については報道で大きく取り扱われるが、その対策面があまり報道されていない印象がある。観光客も含め、引き続き普及啓発、情報発信に取り組んでいただきたい。

○守屋委員

提言書4ページについて、川連蒔絵を「川連漆器の蒔絵」、ミニかまぐらを「かまぐらづくり体験」に修正していただきたい。

●吉澤部会長

本日の意見を踏まえ、事務局で提言書案の修正を行うこととする。修正版については委員からも確認いただく予定だが、最終調整は部会長に一任いただきたい。

このほか、特に意見がなければ第3回部会を終了する。

【閉会】